

long+longing

長い・長く続く+あこがれ・願い・望み

matubaya-tushin
vol.16 2011.7.1

松葉屋通信

long-lived

永続する・長命の

今回は店主善五郎さんへの質問からはじめたいと思います。

質問1 ■今云われているエコについてどう思いますか？

善五郎 ■個人的には、エコエコと云われることに違和感をおぼえることが多いかな。なんだか、その意味するところが曖昧だし、そのうしろにある商業的なおいを感じてしまうから。

エコエコと云われて、脅迫されるようにエコ商品に買い替える。それは正しいのかもしれないけれど、その一方で、どうしても腑に落ちない。エコカー減税の影で、どれだけの「まだ十分に走れる車」が処分されてしまったことや、新技術のうしろで、使われなくなってしまう「技術」を、「惜しい」と思ったりしてしまう。

質問2 ■それでは善五郎さんのイメージするエコってどんなことでしょうか？

善五郎 ■ほんとうに「エコなんてあたりまえだ。」って思う。「わざわざ云うべきにもあらず」って感じ。

ひとりひとりの「心がけ」で、身のまわりの物を大切に扱う。かつての日本人は、みんなしていたこと。

お茶碗ひとつだって、「人の手がかかっている」

permanent

永続的の・常時の

その作る姿を思い浮かべることのできるものを、人はそんなに「ないがしろ」にできないと思う。

質問3 ■「ないがしろにできない」モノの子カラって大切ですね。

善五郎 ■それらをこしらえた人の姿を、想うことができる。そういうモノって、今、僕たちのまわりに、どのくらいあるんだろ。って思う。

工業製品だって、「これ作るのに、どれだけ考えたんだ？」と思えるような品物は大切にすると、それを選ぶことのできた自分も、少し好きになれる気がする。

一箇所でも、「気に入った部分」があれば、中々人は、その品物を手放さない、気がするんだ。

質問3 ■そういうモノを選べる子カラはどこからくると思えますか？

善五郎 ■想像力かな？

うつくしいものをたくさん見て、おいしいものをたくさん食べて、それで、

自分が本当に好きなものは何か。うつくしいと思うものは、何か。

そういうことを感じる。

いろいろなことを見聞きする。そうして自分で考えてみる。

ordinary

普通の・日常の

自分に必要なものはなにか。自分で、きちんと向きあつて選んだものは、大切にすると、思う、きつと。

そして、

そういう事が「普通」だったら、それだけで、

僕たちの日常は、続いていけると、思う。

とても便利な世の中だけど、でも、経済が成長しなくても、しあわせに暮らせるしくみがあると思う。

すぐに手に入らなくても、時間がかかってもいいじゃないか。っていう、「待つたのしみ」のある暮らしも悪くないと思う。

「便利」は、満足感をあたえてくれるわけじゃない。と思う。

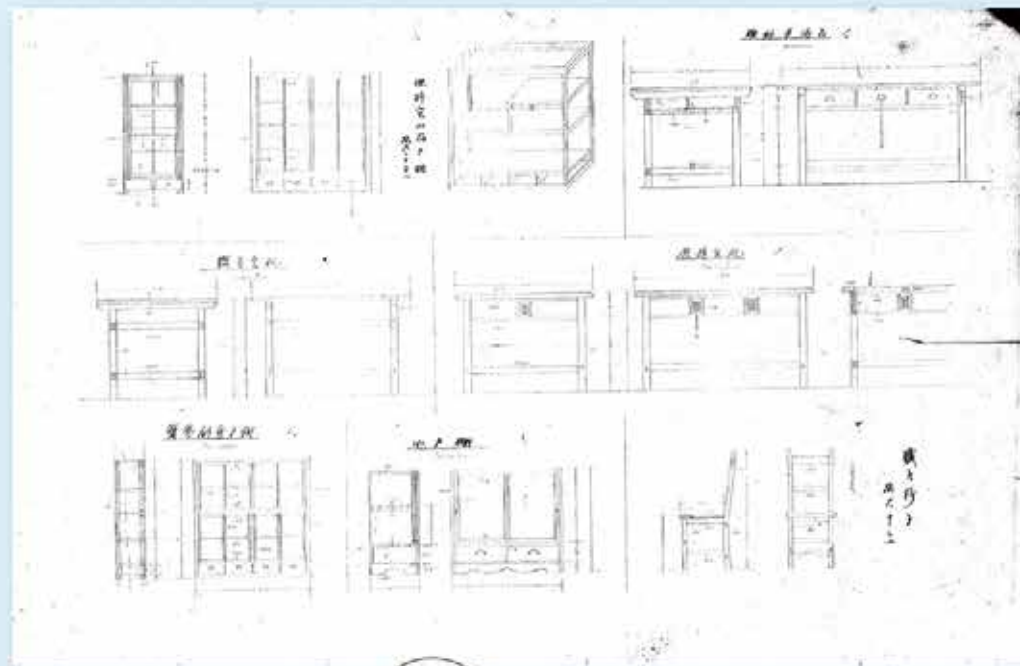
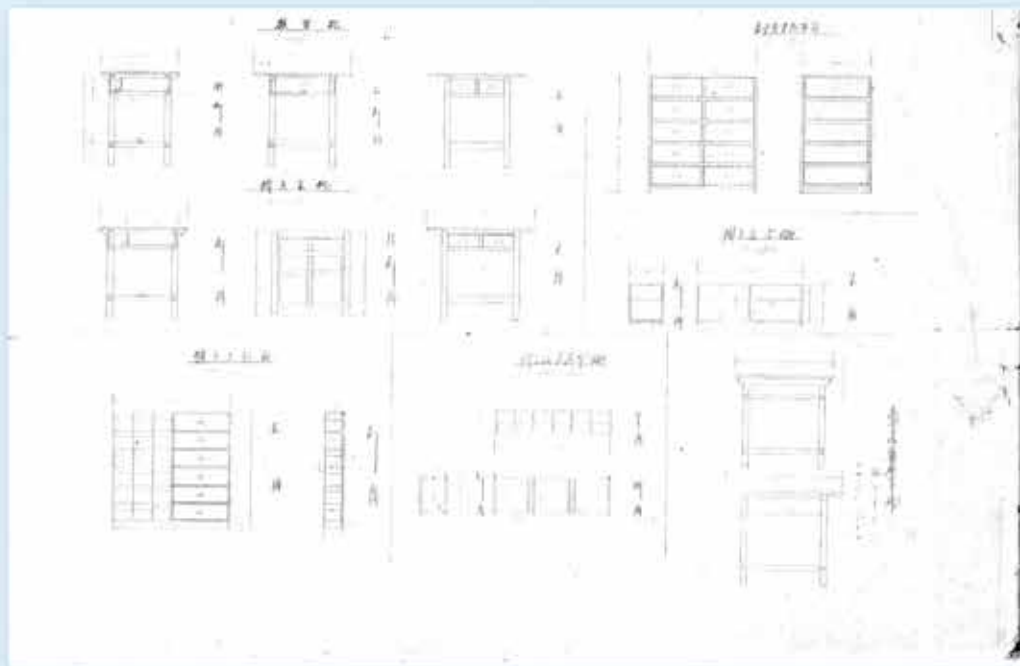
最後にひとこと

三月に、

日本は大変なことになって、だからこそ、僕たちは、自分たちの、本当に望む方向に、ひとりひとりが向きなおった時に、日本は変わるのだと思う。

ちよつと大袈裟かもしれないけれど、そう、望んでいます。

*
松葉屋は、百年以上前から、「作った人の姿が見える品物」を扱ってきたと、自負しています。このこと以上に、「云うこと」なんて、本当はなかったんだ。



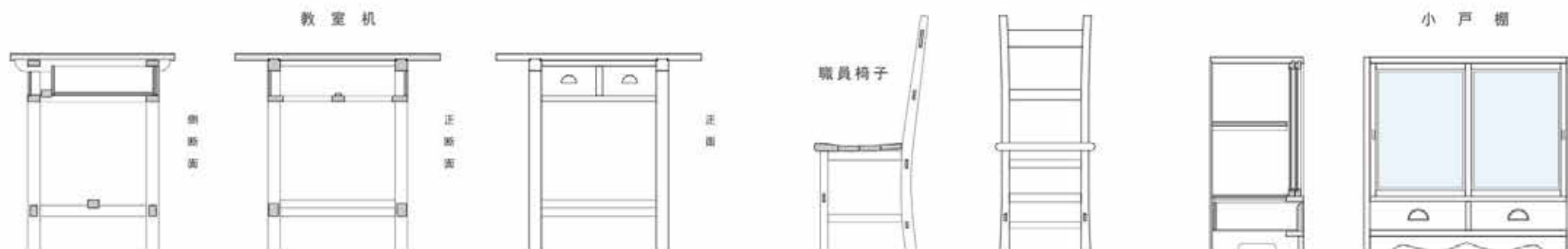
以前「百年家具」でご紹介した、高等学校でのテーブル修理。その当時と思われる、学校備品家具の図面が出てきました。いろいろな棚や机、それから椅子まで。見ただけで楽しい、そして思わず感心してしまう図面です。大切に保存しておくことはもちろんですが、おもしろい！と思えるものを、どんどん利用していきたい。そして、古い家具を再生する時の参考にもしたい！

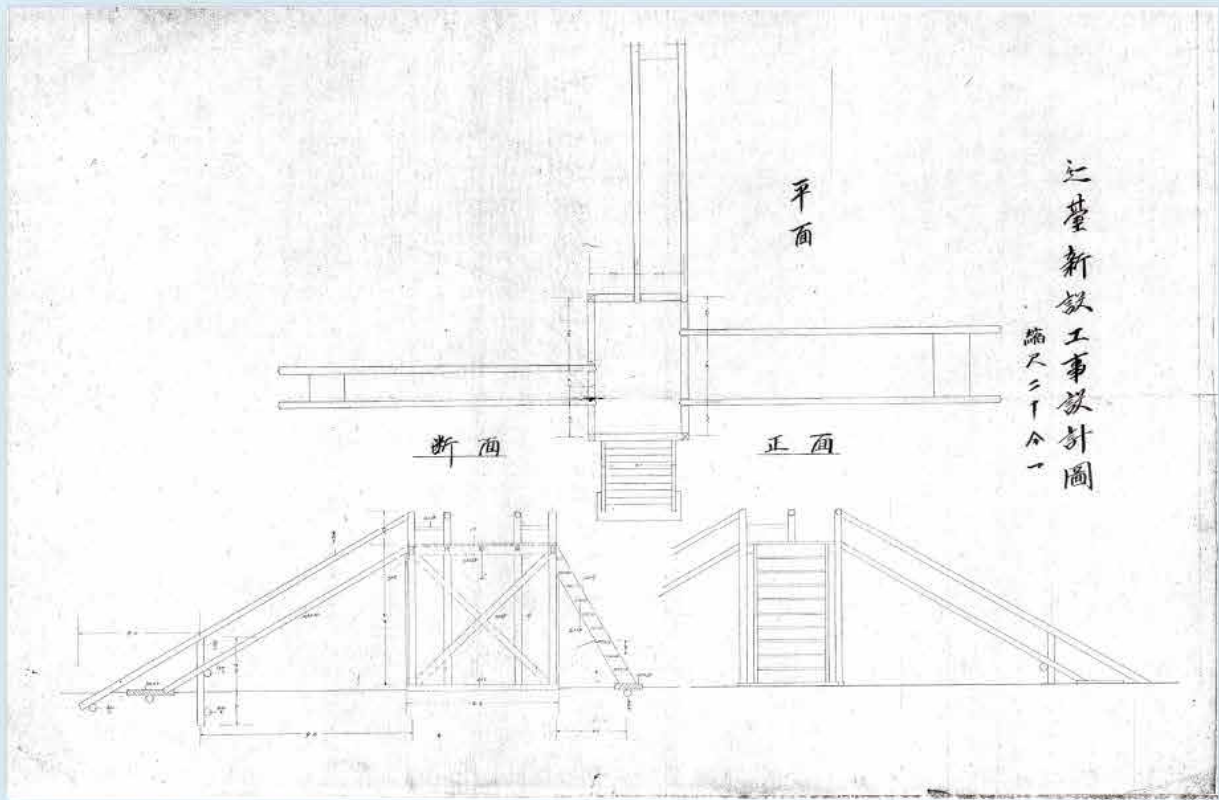
100年前の図面から、あたらしいゆめをもらった気がしました。

およそ

100年前の、松葉屋の図面

この図面の中から、一部を書き起こしてみました。



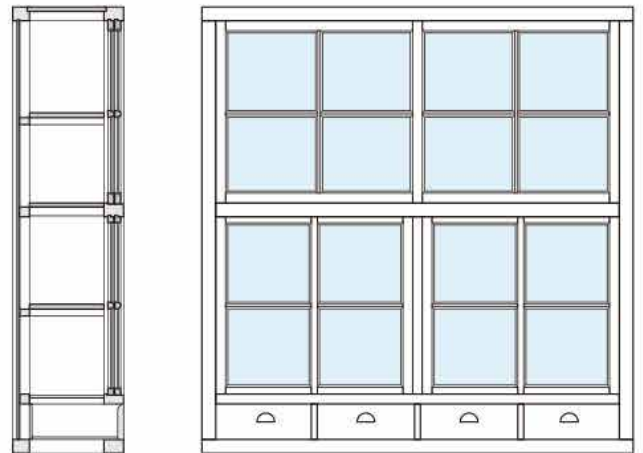


芝蔭新叙工事設計圖
端尺ニ一合一

なんと「すべり台」まで。実物が見てみたいです。

こちらの辻り台図、ご希望の方にコピー (A3サイズ) をお付けします。下記までご連絡ください。

医務劇薬戸棚



まつの文庫

Books! Information

織田憲爾さんのコレクションを展示する『チェアーズ・ギャラリー』とともに、織田さんのご自宅も紹介されています。写真はそのリビングで寛く織田さんです。

美しい椅子がわかる本



美しい椅子がわかる本
成美堂出版



人は、ただ「座る」ということだけを、どれだけ考え続けてきたのだろう。姿勢を支え、寛いだり、お茶を飲んだり、勉強や仕事をする。その用途の広さに加えて、むしろ最も大切にしているのは、「美しいかどうか」ということかと思う。そんなことに気づかせてくれる、美しい1冊。

松葉屋家具店+くらし道具学研究所

〒380-0841 長野市大門町45

since1833@matubaya-kagu.com

TEL 026-232-2346

FAX 026-237-4558

☎ 0120-55-2346

(水曜定休)

© 松葉屋家具店+くらし道具学研究所

Copyright ©2010 Matubayakaguten Co., Ltd.

All rights reserved.

Design & Text * kai+pan



その2 ● 塗料を知る、塗装を知るための小冊子(前編)



その1 ● 木について詳しくなれる小冊子

小冊子をお分けしています。
松葉屋は、家具に用いられる「さまざまなもの」についての小冊子を作っています。
その1
主材となる「木材」のこと。
その2
生活道具としてかかせない「塗料」のこと。
ご希望の方は、お気軽に左記までご請求ください。

お知らせ ● 松葉屋の定休日が水曜日に変わりました。